



3 番
田中副武議員
(公明党)

防災について

阿寺断層帯の地震に対しての対策を早急に推進するために。
①緊急輸送道路や橋梁の耐震化進捗状況と今後の計画は。

◆建設部長

緊急輸送道路に指定された市道は24路線あります。緊急性を要する橋梁から順次耐震補強工事を行っている計画で、現在は市道湯之島1号線に架かる「下呂大橋」の耐震化工事を施工しており、本年度には対策を完了する予定です。
②「国土強靱化地域計画」についての考えを再度伺います。

◆総務部長

熊本地震を受け会議を開催し、机上の計画ではなく、実効性のあるマニュアルの作成と、何よりも職員、市民への危機管理意識の周知が大切であると改めて感じました。

若者の政策参画について

18歳選挙権が実現する夏の参議院選挙を前に、若者の政治的関心を高める取り組みが始まっています。

下呂市においても、「若者議会の開催」や「まちづくり」などの審議会委員に、若年層人員の起用などと検討してはいかがでしょうか。

◆経営管理部長

若い方が意見を言う機会を広げるだけでなく「自分事」として行動につながる取り組みとすることが重要ではないかと考えます。この点を重視して今後の取り組みを進めていきたいと思えます。

今後の市政について

①平均所得が252万0803円で県内40位という状況の分析と対策について伺います。

◆観光商工部長

1人あたりの市民所得を平成31年度までに256万6千円に引き上げる具体的な目標を、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に盛り込んでいきます。

②「女性が輝けるまち」をリードする村山副市長にその思いを伺います。

◆副市長

女性目線で女性の特徴として持ち合わせている繊細さが、仕事においても必要と思う局面があると思います。しかし女性は出産子育てをする時期がありますので、下呂市の少子化対策の支援が非常に大切であると考えます。



2 番
中島ゆき子議員

庁舎・振興事務所の整備について

①庁舎・振興事務所の耐震化に向けて、現在の状況はどうなっていますか。

◆総務部長

平成28年度当初予算には星雲会館の耐震工事、下呂総合庁舎と下呂市民会館の改修工事、さらには下呂庁舎、小坂・馬瀬振興事務所の耐震補強計画の策定など総額4億3400万円を計上しています。

②下呂庁舎は耐震補強により使用可能年数は何年となりますか。

◆建設部長

下呂庁舎は、築後50年を経過しているものの、少なくとも15年、20年以上は使用可能と判断しています。

③合併特例債を活用し、下呂庁舎を新築する考えはありませんか。

◆総務部長

下呂庁舎の新築による整備については、これから庁舎整備計画を見直し、市民の皆さんのご理解をいただいた上で、用地の確保、基本設計、実施設計、建設工事と

進めなければなりません。こうした過程が順調に進んだとしても、合併特例債の利用期限である平成30年度には間に合わないと考えます。

金山地域における光回線の設置について

金山地域は光回線が整備されていません。他の地区と比べサービスの格差がありますが、どのように考えていますか。

◆総務部長

金山地域の光ケーブル改修には、指定管理者からの提案で、概算で5億〜6億円かかる見込みです。下呂ネットサービスの今後のあり方を含め、改善を検討したいと考えています。

食品ロスを減らすための取り組み推進について

①旅館業界における食品廃棄物の削減に向け、市は取り組みを行っていますか。

◆環境部長

ここ4年間の比較をしますと、旅館業界などから受け入れた食品残量は、平成24年度に対し平成27年度で79t減少しています。また、全体量に対しても0.5%減少しています。この減少量は、各業界の皆さんが減量対策に努力された成果ではないかと思えます。



4 番
今井 政良 議員

主要地方道、一般県道の進捗と、竹原基幹農道第3期工事について

◆建設部長

主要地方道下呂白川線は、門和佐大野地内の720mの区間で道路整備を進めています。一般県道門和佐瀬戸線は二ノ樽工区500mの区間においてバイパス部分の道路整備工事、さらには、上流側橋梁の下部工についても工事に着手できる見込みです。一般県道田口洞線は市道と川12号線の道路改良と併せて計画をします。

・一般県道兼政停車場線の改良工事及び舗装工事計画について。

◆建設部長

宮地地内において右折レーンや歩道の設置、山側の落石対策を行う交差点改良工事に着手する計画です。今年度は用地測量を行う予定で、舗装工事は、今年度予定されている区間はありますが、必要な箇所は要望していきます。

◆農林部長

今年度は残り約1500mの測量設計を行う予定です。完成は、

今のところ平成32年度の予定です。ソフト事業については協議しながら、施設整備を考えます。市長の公約である高齢者と子育て世代に向けた福祉政策強化内容の実現について

①老人ホーム待機者ゼロに向けた取り組みについての方策と財源は。

◆市長

下呂市第6期介護保険事業計画では20床の増床を計画しています。在宅介護の支援対策も視野にいれながら、待機者ゼロに向けて努力していきます。

②子育て世代の負担軽減のため学校給食費の軽減をはかるとされているが、軽減の詳細と実施時期、その財源は。

◆市長

学校給食費の軽減を恒常的に行うためには、新たな財源を確保することに加え、現在実施している事務事業の精査と見直しが必要となります。時期などについては未定ですが、出来るだけ早い時期に実施したいと考えています。

③未満児保育料の半額助成を行うべきと考えますが、市長の考えは。

◆市長

保育料の軽減は施策としては有効ですが、それと同時に財源をどう確保していくかの課題もあり、子育て支援策を総合的に判断しながら検討します。



9 番
伊藤 徹悟 議員

太陽光発電施設の設置について

①市における設置基準について。

◆建設部長

太陽光発電施設に限った設置基準などはありませんが、土地開発協議の対象となる案件については1000㎡以上のものが対象となります。

②景観について。

◆建設部長

太陽光発電施設など再生可能エネルギーの推進をしていく必要がありませんが、その反面、景観を阻害されるような大規模な開発も行われています。設置要綱や景観形成基準について研究をします。

③農地法について。

◆農林部長

市内で農地に設置する転用案件は、平成25年1月から平成28年6月までに31件ありました。

④課税項目は。

◆市民部長

太陽光パネルを設置して売電する場合は、設置した太陽光パネルなどの設備は固定資産税の家屋もしくは償却資産の対象です。

市長の韓国儒城出張の経過について
①その目的は。

◆市長

昨年、儒城から訪問いただき、今回、招待を受けたことに伴う表敬訪問の意義。選挙の公約でもあったトップセールスとしての役割。過去の経緯と今後の交流の促進。この3点を目的に出席したものです。

②出張費用は。

◆市長

出張費用は海外出張の日当3日間で1万円。往復の飛行機代として下呂温泉観光協会へ負担金として支出する分が4万4500円。合計で私の分として5万4500円が公費で支出されています。

③海外出張時の危機管理について。

◆市長

災害時を想定した危機管理は、携帯電話を利用すれば、いつでも連絡が取れますので、例えば、豪雨などによる土砂災害発生が高まった場合の避難勧告など、適切な指示が出せると考えています。

④危機管理について日本を離れる時のルール説明だけでなく、もっと具体的に説明を。

◆市長

危機管理につきましては儀礼的と申しますか、そのままのことを述べた訳でございます。1年のうちにしつかりとした方向性を出して皆さんに説明できるように進めたいと考えています。



7 番
宮川 茂 治 議員
(日本共産党)

高齢者対策と老人ホームの取り組みについて

下呂市も少子高齢化が進んでいる中、高齢者に対する取り組みが必要となっている。その中で、特に老人ホームへの入所希望者が非常に多く、年金のみの収入の方は入所費が高く入りにくいとも聞く。年金収入のみで入れる施設がほしいと要望を聞いているが、市として今後その問題にどう取り組むのか。

◆福祉部長

年金収入の金額にもよりますが、現在ある福祉制度の中、生活保護制度の活用、家族親族の支援も併せてご相談いただきながら、個々のケースに合わせた対応が必要になってくると思われまます。

介護福祉施設問題について

高齢者や障がいのある方、一人暮らしの人など介護福祉施設を利用する方は増えているが、その施設で働く方（世話人）が不足していると聞く。就労者不足の問題と労働賃金の件についてどう考えるのか。

◆福祉部長

介護の仕事は、従来から3K（きつい、汚い、危険）と言われる人材確保が難しく、給与水準は全産業平均より10万〜11万円低い状況です。国では介護人材確保地域戦略会議により、①潜在介護人材の呼び戻し②新規の方の採用③介護の職場の改善に重点を置きながら施策を進めているところです。介護職の処遇改善もありますが、地域で介護を支えるという視点から、介護職への理解を深めること、介護サービスの安易な利用を抑制するなど違う視点から必要と考えます。

下呂病院の通院バスについて

下呂温泉病院行きのバスは「経路や時間などに問題がある」と病院に通院される方々から話を聞いている。その点について内容を調査し、改善する考えはあるのか。

◆経営管理部長

利用される方々のご要望や意見、JRRのダイヤ改正等に対して、濃飛バスや下呂温泉病院との意見交換を密に行いながら、よりよい運行経路やダイヤ改正を考えていますので、ご理解いただきたいと思います。



13 番
中島 達也 議員

新市長の行政運営について

多くの行政課題が山積みする中で、市長ご就任に敬意を申し上げ、その決意を伺います。

①下呂市の現状をどう把握され、課題をどのように捉えてみえるか。

◆市長

下呂市を取り巻く状況は、少子化、生産年齢人口の減少、高齢化といった問題を抱えており、将来の市政運営に大きく影響する課題です。とりわけ福祉・医療と言った社会保障に関する事項、生産年齢人口の減少による経済活動の低迷、事業継続に向けた人手不足、公共インフラの維持など多種多様な影響が懸念されます。私は、20年後、30年後の下呂市の姿をしっかりと見据えながら、今ある市内の自然・文化・歴史など、多彩な地域資源を守り育てます。また「まちづくりは人づくり」という考えのもと、ふるさとを愛する豊かな心を育み、まちの魅力を高めることで、このまちを好きになり、誰もが幸福感を感じられる、若い方々が将来も住み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

るまちづくりを目指します。

②マニフェスト130万人に向けての施策は。また急増する外国人観光客の対応は。

◆市長

下呂温泉以外の宿泊者数は、14万〜15万人は可能と思われまます。下呂温泉に115万人を超える宿泊者があれば、130万人は実現可能な数値だと考えております。これは、まち・ひと・しごと創生総合戦略においても平成31年度の目標値としていわれています。ポイントを絞ると広域連携、着地型観光、「下呂市版DMO」の構築が後押しになると思います。

③巨大組織をまとめていくには、副市長の役割も大きいと思うが、所見を。また女性としての視点とは。

◆副市長

職員をまとめていくことについては、上司と部下との連携、信頼関係であると思えます。職員皆が動きやすいところが大事ではないかなと思っております。報告、連絡、相談を密にすることが仕事の精度を高めていく基本的なところだと思います。今後行政運営の中でバランスのとれた持続可能な下呂市を職員一丸となって進めたいと思えます。